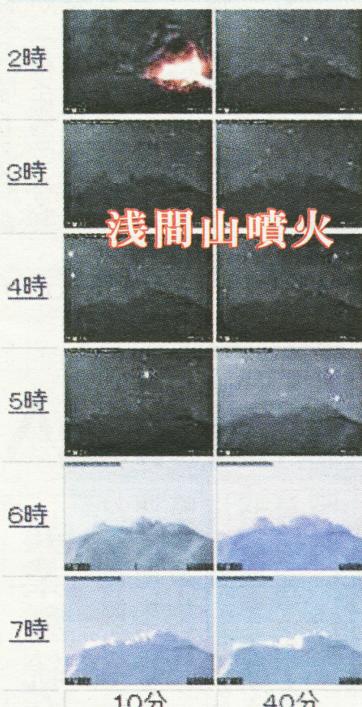


2日未明に小規模の噴火をした浅間山だが、漆黒の夜空が真っ赤に染まる写真を見て、規模以上に噴火の恐ろしさを実感した人は多いのではないか。その決定的瞬間を30以上のメディアに提供した「まえちゃんねっと」は、「火山オタク」を自負する個人の会社だった。浅間山をウォッチして4年以上、投じた費用は1000万円以上。火山への執念が今回の噴火写真で実を結んだ。



2日未明、監視システムが噴火の瞬間をとらえた(まえちゃんねっと提供)
2時
3時
4時
5時
6時
7時
10分
40分

24時間ウォッチ、投じた費用1000万円 火山オタクの決定的瞬間

マグマの中から噴石が

飛ぶ迫力ある画像は、火

口から北8キロの地点に設

置されたカメラがとらえ

た。「通常、撮影は10分

間隔だが、『火口周辺警

報』が出たので一分おき

に切り替えていた」と語

るのは、「まえちゃんね

つと」(千葉市)の前嶋

(よしのり)代表

美紀(46)。同社は前嶋さん

動で火口を撮影してネット

に成功

している。

浅間山は04年秋にも噴

火し、降灰は周辺の農業

にも被害が出るほどだっ

た。この際、前嶋さんは

次の噴火に備えるた

め、もっとカメラを増や

した方がいい」と地元の

人や周辺のペンションの

協力を得てカメラを設

置。以来、10分間隔の定

時。通常、10分間隔の定

東大地震研に技術提供も

「カメラはCCD(電子荷結合素子)搭載の一眼レフ。撮影枚数が多いので3~4カ月で交換が必要になる。夜間だとオーバーオーラスでは撮影できない」という。

「お金は、かなりかかる

立地研究所のオーロラ観測や別荘の管理にも応

つている。これまでに1000万円は超えている

火山観測という「趣味」を極めるために確立

した監視・観測システムだが、「07年ごろから商売にも結びついてきた」という。

いい、同システムは国

が、みんなに提供した

している。遠くのもの

から遠隔操作して撮影し

せす、みんなに提供した

い」と、今後も趣味とし

ての自主観測と情報提供

を続けていくつもりだと

いう。

火山観測を本格的に事

業化することも可能に思

えるが、前嶋さんは「イ

ンターネットは広く普及

している。遠くのもの

から遠隔操作して撮影し

せす、みんなに提供した

い」と、今後も趣味とし

ての自主観測と情報提供

を続けていくつもりだと

いう。